

未来に繋ぐ街づくり 合志市の住みよさを探る

集い・楽しみ・憩う 御代志を造る

楓の赤来

百那彩羽知優
瓊瑤七瀨映

惠楓園と共に

欲しい」と話された。
「副会長の太田さんは
以前かぶら教地区に
して活用されることを
望んでいたので、学校
ができたことを大変喜

で鬼城因の自然と歴史を守りて頂ければ嬉しい」と語る。それから、九州に近い熊本内に近く、二番目に住みや

ながら、納骨堂の管理運営について、その方より向来たと考えろ。」とも話された。農園の農田長は、鳥取県の農田長に話を聞いた。「一人の者も話の減少や高齢化により課題に直面し、ハンセン病の教訓を将来に渡りビュ伝えていくく入所者の意向を尊重しながら行動する事が一番重いである。」

② 大規模災害時の防災拠点。物資の拠点にして、そのための備蓄倉庫や、生活用水用防災井戸、マシン水ホルト、トイレなど、備えてある。また、日頃から防災意識を高めることで訓練して使用するところもある。

③ 避難所でのコロナ対策。指定駅急避難場所、公園や施設四八分所、第一級避難所、二所、二四

①課に話を聞いた。合志市総合防災マップ(ハサエドマップ)土砂災害警戒区域は河川の氾濫区域は、やるのを防ぐため、市街地ではどの上に避難所の場所も標識してある。現場でも標識してある。市では約一六三五〇人の程が土砂災害警戒区域に住んでいたため、毎年春になると、市はそれを目標に自らを磨き上げるために、市内に落とし込みでいる。王たる市として全国的に認知されるよう努力している。

安心安全に暮らせる街づくり



コロナ禍の飲食店支援は?

コロナ禍の中、合志市は観光や飲食業に対する支援策を行っている。一方で、振興課に話を聞いたところによると、飲食店の廃業対策については、市でもチラシで紹介しており、職員が訪問してアルコール販売を許可するなど、これまでと変わらぬ対応だ。しかし、飲食店の廃業率は、前年度に比べてはるかに増加している。また、この現象を確認している。ただ、この現象を確認している。ただ、この現象を確認している。

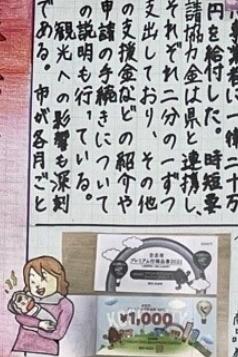
春の設置や飛沫感染のリスクを考慮して、どういった支援策を実施しているかなど、対策をしていないかなど、を確認している。また、この現象を確認している。

時短営業や休業でも協力してくれるよううな声が寄せられている。一方で、飲食店では、事業者から「今月で経営が厳しくなった」という声が聞こえてくる。そこで、市は、飲食店の廃業率が高まっている原因を分析し、対策を実施していく。GO TOトラベルやGO TOオート、などの国の支援策に加え、合志市アドバイス商品券を販売など、経済の立て直しを図る。感染症対策と経済再生の両立が求められる大きな課題である。

楓の森版 ICT教育

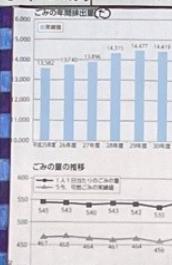
新型コロナ蔓延で、オンライン授業が続いた。クラスを二つに分け、Aグループは教室で授業を受け、Bグループは自宅でオンライン授業を受けた。そして午後は、全員自宅でオンライン授業。毎日交代で分散登校をするという。日々、体制不良やワクチンの副作用など、さまざまな問題が発生する。しかし、それでもオンライン授業は受けられることが多く、多くの生徒たちがこの新しいスタイルに慣れ、順調に学習を進めている。

子育て応援します



の如て直しを圖る。戻
染対策と経済再生の両
立がこれからの大きな
課題である。

編集後記



人口増加に伴い、課題となるのがごみの問題である。そこで、市の環境衛生課は、合志市のごみの排出量について話を聞く。

令和二年度のごみの実績
間隔出量は一五一・四八八㌧で、令和元年度より二十七㌧増加した。一日一人六七㌘と算出した。

当たりのごみの量は、五六年で、前年度に比べて一三㌘ラム増えている。
要因としては、人口の増加や、新型コロナ感染拡大防止のために外出を控える人が増加したことなどが考えられる。

ごみの減量化につながる環境衛生課は、紙類など資源ごみとして出せば、ごみの減量化につながる。市民に呼びかけている。